

武家の経典と伝

初冬風

冬風一うき昨日六酒を飲ちぬ
山入あ〜あ控や〜い。

白天

書

冬乃葉小ひれぬ書をあつたの
み〜いれぬ控不進〜い。

左
 元河
 躬恒
 松平
 秋風
 徳川
 頼朝
 頼朝

右通
 わらわのふれ
 おもひ
 ちひて

落葉
 石のくさし我をさうれくそ
 さもさうし本乃葉ちるのさあ。

右
 さもさうし
 東や
 世中の
 さうし
 結心
 結心

今日不知

誰計會

春風盡水

一時來

かたぐ

む

跡なき

かたあ

さとし

まは

言能う

小

さし

り

みく

水 木 種
 子 美 送
 隔 梯 寫
 音 聲 二

じ 引 候
 香 徳 山 个
 西 音 入
 あ 一

冬日用詠二首和秋卷
冬日用詠

村由路の友
村由路

柱の落きく 雲のたれぬ
 去りて 空に 雲のたれぬ
去りて 空に 雲のたれぬ

困るる最
困るる最

さゆらぐ 水は 流るる 雲は 散るる
 心は 乱るる 世は 変わるる
 わが 身は 老るる 命は 尽るる

冬日用詠

和歌

秋日國海而後單花

和歌

和歌

和歌

さうさう又津越哉

うさうさうさうさう

さうさうさうさう

疾うさう

和歌

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '文' and '和歌'.

此卷卷首有刻傳秘稿
以原摺據此即全卷之末

文政九年八月廿七日

持之
亦村時賢